

自由部門

タイトル：私が考えるグローバル化

作者：現代ビジネス学部公共経営学科 豊田美月

私にとっての世界の一体化、つまりグローバル化とは、標準がなくなることである。標準は言い換えれば「当たり前」である。例えば、人は男か女かのどちらかであるという標準がなければ、性的マイノリティという考え方は発生しない。他にも、日本人は日本語を話すという標準がなければ、英語などの他言語を話す日本人が高く評価されることはない。この標準がなくなり、個人が自分自身として人生の選択をできるようになった時、グローバル化が実現したということができるのではないかと私は考える。

私は英語講師に、どこの国から来たのか尋ねたことがある。しかしその先生は、両親が海外の人であるが広島県で育っていた。そして、その先生は私に「あなたは私のホームタウンはどこだと思う？」と問うた。その時私は、見た目が日本人には見えないからこの先生は海外から日本に来たのだらうと、見た目で無意識に判断していることに気づくとともに、考えなしにいったその質問がいかに無礼な質問だったかを思い知らされた。また、テレビで海外出身の人が日本語の歌を歌い、それが口パクか口パクでないかを考えるという番組を見たことがある。簡単だろうと取り組むのだが、実際に映像を見てみると難しい。その海外出身の人の日本語の発音などに違和感がないことも難しくしている要因なのだが、それ以上に難しくしているのは、見た目が日本人ではない人がすらすら日本語の歌を歌っているという違和感である。これも無意識のうちに見た目と、日本語を話すのは日本人であるという標準に従って判断した結果であらう。

このように生活の中で自分でも気づいていなかった自分の標準があることに気づき、ハッとさせられることがある。この標準は差別の根源になる可能性があるものでもあり、注意が必要である。最も分かりやすい例を挙げれば、幼いころによく言われる「男の子なんだから強くありなさい」「女の子なんだからおしとやかにいなさい」だろう。こういわれることで子どもは自分の性を強く認識し、こうあるべき、こうあって当たり前という固定概念、つまり標準を持つ。この標準は女性蔑視や性的マイノリティへの偏見を誘発する可能性がある。このように自分の中にある無意識の標準は、幼いころからの周辺環境やかかわる人達によって気づかないうちに形成され、長い年月をかけ自分の中に刷り込まれてきたものであるため、気づくことも変えることも容易ではない。しかし、もし全員の中からこの標準がなくなったならば、一人ひとりが個人として自分の人生を選択し、自分自身として正当な評価を得ることができるようになるのではないだろうか。

では、無意識の標準がなくなるとはどういうことだろうか。今日までに性別や人種、出身国、家柄など、自分ではどうにもできない様々な理由により権利を得ることができなかつたり迫害を受けたりしてきた人は大勢いる。これは誰かの無意識の標準に沿った結果なので

はないだろうか。安田学園創立者安田リヨウも女性という理由で学ぶ機会を何度も奪われた女性のひとりであろう。リヨウ先生はどのような思いで学ぶ機会を何度も得ようとし、現在まで続く女性の学び舎をつくったのだろうか。これは私の想像であるが、リヨウ先生は周りの人たち、社会の人たちの中にある無意識の標準と戦っていたのではないだろうか。リヨウ先生の父親には、女性が医者になるなどありえないという標準があっただろうし、当時の社会をみれば、女性には権利がなく当たり前という標準があっただろう。リヨウ先生は女性に関するこのような標準がなくなり、性別に関係なく本人が望めば高等教育を受けることができ、どこにおいても個人の能力や人間性で評価される世界になることを望んだのではないだろうか。そして現在、私が生きる令和の時代は、完璧といいきることはできないかもしれないが、女性の権利、地位が認められている。女性はマイノリティということはすでにできないだろう。この事実は本学の創立者安田リヨウをはじめ、女性の権利のために自分の中にもあったであろう標準を壊し、社会の標準と戦った世界中の多くの人たちの努力の賜物といえる。このことこそ、無意識の標準がなくなるということであろう。ジェンダーに関する標準がなくなれば、男性、女性、性的マイノリティというくりに縛られることなく、今ここに存在している私自身として存在できるようになると想像する。ここではジェンダーを例に挙げたが、人種に関する事柄など、国際的に考えるべき事柄についても全く同じことがいえるはずだ。女性に関する標準だけでなく、様々な分野において一つずつ標準をなくしていけば、グローバル化は実現するのではないだろうか。グローバル化の実現とは、差別をなくすことと同義といえるのかもしれない。

最後に、私が考えるグローバル化が実現した世界はどのような世界か述べておきたいところだが、私の中でもまだその全体像はあやふやである。どこまで標準をなくすべきかという問いの答えを導き出すには、まだ多くの時間と、先人や先生方など多くの方々から教をいただくことが必要だと感じている。なぜなら、全ての標準がなくなった世界では、アイデンティティの確立をはじめ、多くの問題が発生するはずだからである。だが、その答えは私が一人で考えたところで何の意味も持たない。その世界を実現するために標準をなくしていく段階で、私たち一人ひとりが考えなければならないこと、準備をしておかなければならないことなどやるべきことは山積みである。皆が真剣に標準について考え向き合い、隣人と手を取り合うことができた時、この世界の中に住む全ての人にとって最善の、たったひとつの世界が徐々に形になっていくのではないだろうか。

人には幼少期から育った環境によって形成された無意識の標準がある。この標準がなくなり、一人ひとりが自分自身で自分の人生を自由に選択できるようになった時、グローバル化が実現したといえる、と私は考える。その実現のために、まず私たち一人ひとりが自分の「当たり前」を打ち壊す覚悟と、自分自身で選択し、自分自身として生きていく責任を持つことから始めるべきではなかろうか。